

国指定重要文化財

関家住宅

せきけじ ゆうたく

都筑区勝田町にのこる関家住宅は、当初から市内にある古民家として唯一、国の重要文化財に指定されている建造物です。関家は、戦国時代に小田原北条氏の家臣だったという伝承をもち、江戸時代の初めから勝田村の名主を務めました。江戸後期には代官職も兼務し、屋号「おだいかん」を号しています。東日本でも最古級と考えられる主屋の建築は17世紀前半にさかのぼり、書院は18世紀前半、表門は19世紀中頃に建てられました。



1 関家と勝田村の歴史

勝田の地名はふるく、鎌倉時代の歴史資料に見えます。その後、戦国時代の
天正18年(1590)、豊臣秀吉の古文書に「こつくへ之庄内かちた」と記され、太
閤検地の帳簿にも「勝田」の田畑や屋敷地が記されています。江戸時代になると、
慶長3年(1598)に徳川家康の侍医・久志本氏が秀忠の病氣平癒の功績により、
勝田・牛久保2ヶ村を与えられ、幕末まで支配しました。

関家は南東方向にひらけた谷戸の中腹に建っており、屋敷の背後を中原街道
が通り、北隣には村社・杉山社が鎮座しています。

明治時代になると、勝田村は山田村・大棚村・牛久保村・茅ヶ崎村と合併し
て「中川村大字勝田」となり、昭和14年(1939)には都筑郡が横浜市に編入され
て港北区勝田町に、平成6年(1994)には都筑区が誕生して都筑区勝田町になり
ました。



勝田村絵図 寛保3年(1743)

2 建物の概要



表
門

19世紀中頃に建築。桁行20.7m、梁間4.8m、茅
葺2階建ての長屋門。
もとは平屋建てだったが
明治24年(1891)に2階建
てに改造。



主
屋

17世紀前半頃に建築。桁行18.2m、梁
間9.1m。入母屋造、茅葺。土間の左
側に4つの部屋を設ける四ツ間取り。
神奈川県内の他の古民家と比べて、一
回り大規模。開口部の少ない閉鎖的な
作りで、採光のための格子窓「しし窓」
は関東や中部地方の古い時代の民家
に見られる特徴。



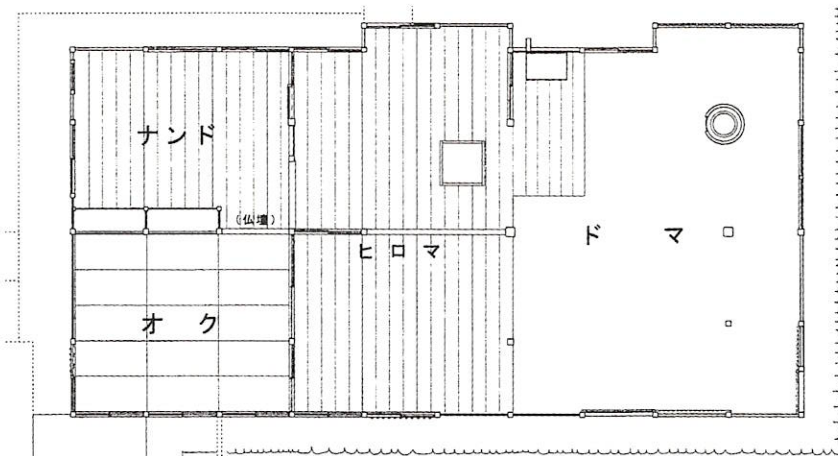


図1 主屋 平面図

内部は東側に広いドマを設け、西側の居室部分は4部屋が田の字型に配置される。東側の2部屋は一体で板敷きのヒロマとし、北側に囲炉裏が設けられる。西側の2部屋のうち南側は、座敷にあたる畳敷きのオクで、二連の床の間を備える。その北側は、壁に囲まれた閉鎖的な板敷きのナンド。

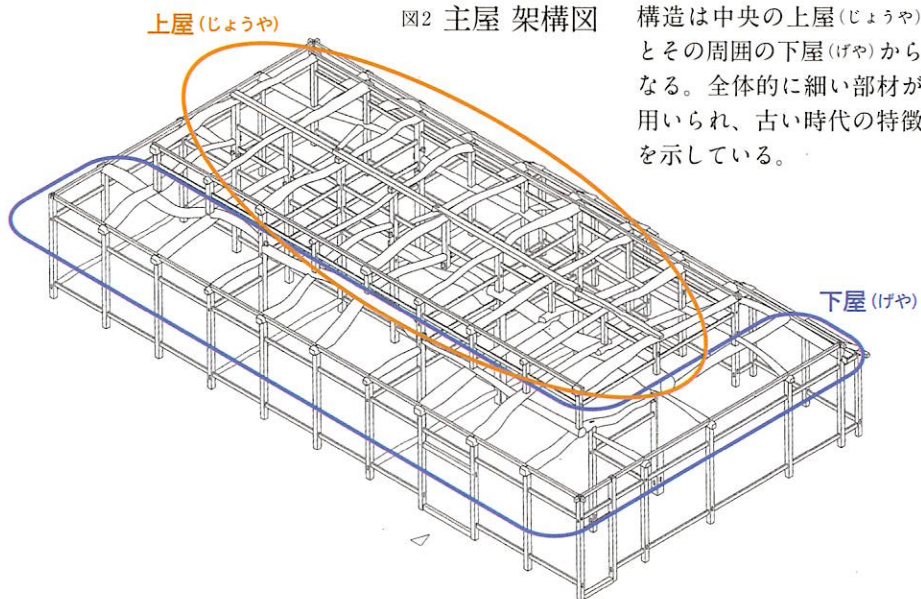


図2 主屋 架構図

構造は中央の上屋(じょうや)とその周囲の下屋(げや)からなる。全体的に細い部材が用いられ、古い時代の特徴を示している。

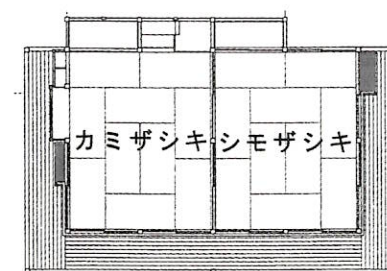


書院

18世紀前半頃に建築。桁行9.3m、梁間6.3m、主屋の南面西端に建てられた「カミザシキ」「シモザシキ」と呼ばれる十畳2室の座敷。寄棟造。

図3 書院 平面図

10畳の部屋が東西にならび、三方に濡縁を廻らす。西側がカミザシキ、東側がシモザシキで、カミザシキには北面に床と床脇が、西面に違い棚と付書院が設けられる。



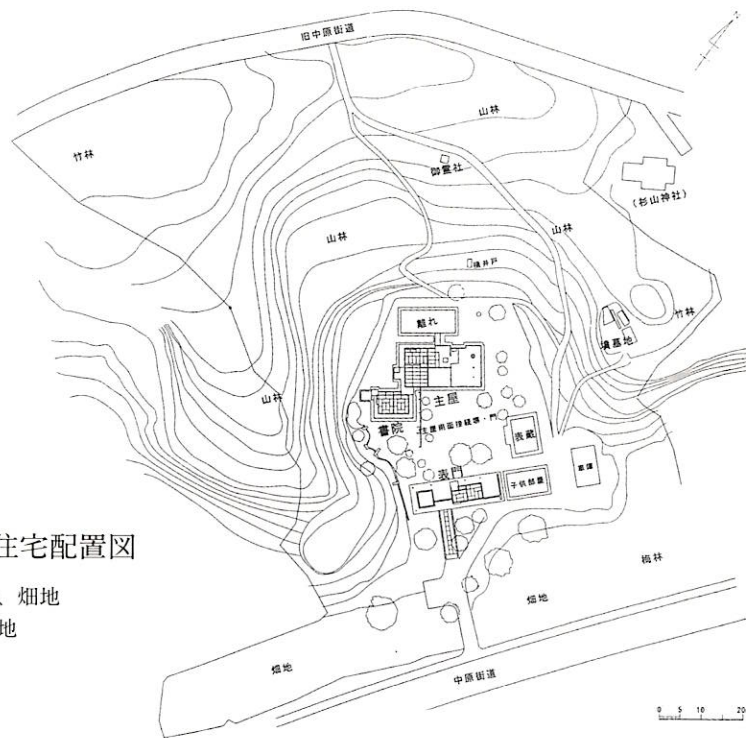


図4 関家住宅配置図

宅地、山林、畑地
および墳墓地
11,548.1㎡

3 保存修理事業の概要

関家住宅では、平成14年11月から平成17年7月にかけて、国庫補助事業による大規模修繕が行われました。主屋は、基礎の沈下や経年による弛緩・傾き、蟻害、腐朽が多く見られたため、すべて解体して組み直しました。また書院は、基礎の沈下は見られたものの、建物の部材は比較的健全であったため、柱や梁等の軸部を残した半解体修理を行い、さらに表門は屋根の部分修理を行いました。

平成30年には主屋・書院・表門の、すべての屋根の葺き替え工事を行いました。茅葺屋根は、保温性・吸音性・通気性に優れている反面、鳥害、苔の発生や経年による劣化が生じやすいため、今後も定期的な葺き替え・修復が必要となります。



平成30年の茅葺屋根葺き替え作業の様子

4 周辺の古民家

旧内野家住宅主屋／旧小杉家長屋門



●旧内野家住宅主屋／旧小杉家長屋門

施設名▶せせらぎ公園「古民家」 住所▶都筑区新栄町17
アクセス▶横浜市営地下鉄仲町台駅より徒歩5分

現在の都筑区荏田東2丁目にあった旧家・内野家は、昭和55年にせせらぎ公園内に、建築当時の姿に近い形で移築・復元されました。土間に隣接した広い板の間（ヒロマ）と2つの部屋からなる三ツ間取りで、土間と広間の境の中央に設けられた低い板壁「タキギヨケ」は、横浜付近の民家に特有のものと言われています。旧小杉家長屋門は東京・目黒区にあった建物が、横浜市に寄贈されたものです。

旧長沢家住宅



旧長沢家住宅 主屋・馬屋

●旧長沢家住宅

施設名▶都筑民家園 住所▶都筑区大瀬西2番（大塚・歳勝土遺跡公園内） TEL▶045-594-1723
管理者▶NPO法人都筑民家園管理運営委員会
開館時間▶9:00～17:00 休館日▶第2・第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月29日～1月3日
アクセス▶横浜市営地下鉄センター北駅より徒歩8分
（横浜市歴史博物館屋上より遊歩道あり）、駐車場なし

都筑郡牛久保村にあった旧家・長沢家は、江戸時代に名主や組頭を務めました。主屋は18世紀中頃の建築と考えられており、土間に4つの部屋が隣接する5室広間型です。畳敷きで天井が設けられたナカノマとオクの2部屋は、幕府の役人などを迎える接客スペースでした。廊下でつながる馬屋には、馬を飼育するウマヤ部分と食料を保存するミソベヤ部分があり、主屋と馬屋とは、棟をそろえて連続して建てられていました。

周辺案内MAP



関家は、個人住宅であるため、通常は一般に公開しておりません。
毎年、ご当主のご協力の下、横浜市教育委員会が主催する公開見学会を実施しています。
注意！ 詳しくは横浜市教育委員会または横浜市歴史博物館にお問い合わせください。

横浜市教育委員会 生涯学習文化財課

〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50-10
TEL 045-671-3284

横浜市歴史博物館

〒224-0003 横浜市中区中川中央1-18-1
TEL 045-912-7777

〈主な参考文献〉

- ・『重要文化財 関家住宅主屋・書院および表門 保存修理工事報告書』((財)文化財建造物保存技術協会、2005年)
※当冊子使用の図版1〜4は、この報告書掲載の物を一部改変して使用した。
- ・『日本の民家 第1巻 農家1(北海道・東北・関東)』(学習研究社、1981年)
- ・『神奈川県文化財図鑑 建造物篇』(神奈川県教育委員会、1971年)



このパンフレットは「平成30年度 地域の美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業」の一環として、横浜市歴史博物館を中核館とするよこはま地域文化遺産デビュー・活用事業実行委員会が協力して作成しました。

「国指定重要文化財 関家住宅」パンフレット

発行日 2022年11月12日(第4刷)

編集 横浜市歴史博物館

発行 横浜市歴史博物館 よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業実行委員会

デザイン やなぎ堂 柳原梢子